

日興グローイング・ベンチャーファンド

運用報告書（全体版）

第23期（決算日 2026年7月17日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。
「日興グローイング・ベンチャーファンド」は、2026年7月17日に第23期の決算を行ないましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2003年7月18日から原則無期限です。	
運用方針	主として「グローイング・ベンチャーマザーファンド」受益証券に投資を行ない、信託財産の中長期的な成長をめざします。	
主要運用対象	日興グローイング・ベンチャーファンド	「グローイング・ベンチャーマザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	グローイング・ベンチャーマザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
組入制限	日興グローイング・ベンチャーファンド	株式への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資は行ないません。
	グローイング・ベンチャーマザーファンド	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資は行ないません。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.amova-am.com

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

<952354>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近 5 期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			東証スタンダード市場指数 (配当込み)		株 式 組 入 比 率	純 資 産 総 額
		税 込 分 配	み 金	期 騰 落 中 率	(参考指数)	期 騰 落 中 率		
	円	円	円	%		%	%	百万円
19期(2022年 7 月19日)	39,323	100		△20.6	977.28	—	96.3	9,302
20期(2023年 7 月18日)	45,342	0		15.3	1,135.02	16.1	96.1	10,174
21期(2024年 7 月17日)	38,226	0		△15.7	1,358.72	19.7	96.2	8,163
22期(2025年 7 月17日)	41,884	0		9.6	1,503.31	10.6	96.2	7,507
23期(2026年 7 月17日)	40,305	0		△ 3.8	1,761.32	17.2	96.0	7,390

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 東証スタンダード市場指数 (配当込み) は、2022年 4 月より新たに算出されるようになった指数です。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		東証スタンダード市場指数 (配当込み)		株 式 組 入 比 率
		騰 落	率	(参考指数)	騰 落 率	
(期 首) 2025年 7 月17日	円		%		%	%
	41,884	—	—	1,503.31	—	96.2
7 月末	43,523		3.9	1,533.68	2.0	95.8
8 月末	46,779		11.7	1,606.99	6.9	94.8
9 月末	46,403		10.8	1,611.85	7.2	95.3
10月末	45,630		8.9	1,609.08	7.0	95.0
11月末	45,780		9.3	1,648.21	9.6	96.0
12月末	44,294		5.8	1,671.61	11.2	96.0
2026年 1 月末	43,013		2.7	1,745.37	16.1	95.4
2 月末	44,045		5.2	1,919.89	27.7	96.2
3 月末	39,069		△ 6.7	1,758.42	17.0	96.0
4 月末	41,544		△ 0.8	1,830.37	21.8	96.0
5 月末	43,353		3.5	1,820.05	21.1	95.9
6 月末	40,841		△ 2.5	1,795.05	19.4	96.1
(期 末) 2026年 7 月17日	40,305		△ 3.8	1,761.32	17.2	96.0

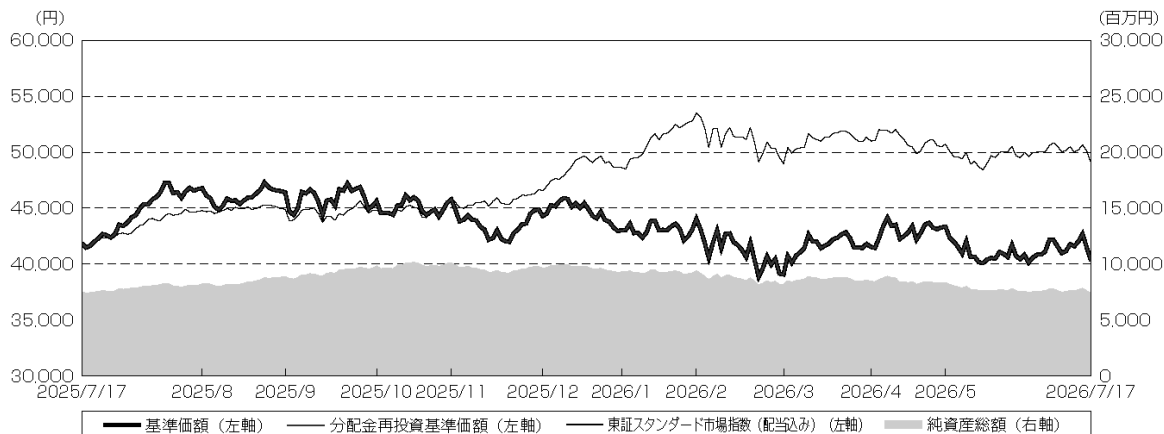
(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

(2025年7月18日～2026年7月17日)

期中の基準価額等の推移



期 首 : 41,884円
 期 末 : 40,305円 (既払分配金 (税込み) : 0円)
 騰 落 率 : △3.8% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および東証スタンダード市場指数 (配当込み) は、期首 (2025年7月17日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 東証スタンダード市場指数 (配当込み) は当ファンドの参考指数です。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、高成長新興企業の株式に実質的な投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・2025年8月に、新興株式のなかでも出遅れ感の強い好業績銘柄が買われる動きが強まった流れを受け、大きく上昇したこと。
- ・2026年4月から5月にかけてAI (人工知能)・半導体関連、蓄電池関連、宇宙関連などの組入銘柄が大きく上昇したこと。

<値下がり要因>

- ・2026年2月にA Iの台頭により「SaaSの死」が意識され、ソフトウェア関連銘柄が下落したこと。
- ・2026年3月に原油高によるインフレ懸念を背景に米利上げ観測が台頭し、中東情勢の緊迫化を嫌気したリスクオフの動きと相まって、新興株式が大きく下落したこと。

投資環境

(株式市況)

当期の株式市場は、T O P I Xが上昇基調で推移する一方、新興株式市場は2025年の年末にかけて下落基調になるなど、前半は対照的な動きとなりました。しかし、2026年に入ると、新興株式市場にもA I・半導体関連物色の流れが広がったほか、宇宙関連などのテーマ銘柄が買われ、上昇に転じました。ただ、期間末にかけてはA I・半導体関連一極集中への警戒感や、米大型I P Oを控えた需給悪化懸念などを背景に、これまで上昇してきた銘柄を中心に調整が進みました。

当ファンドのポートフォリオ

(当ファンド)

当ファンドは、「グローイング・ベンチャーマザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

(グローイング・ベンチャーマザーファンド)

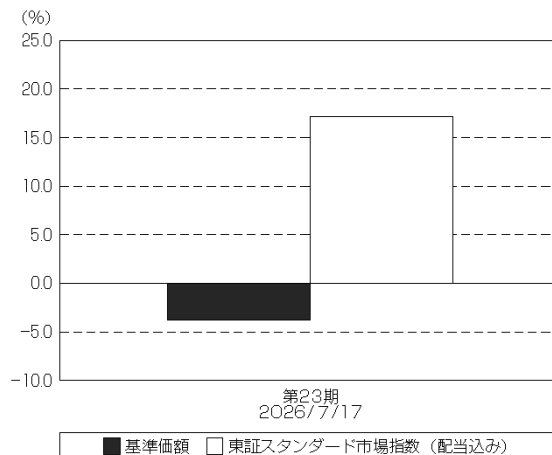
当期間も徹底した個別・直接面談調査を通じ、斬新な発想や製品を持ち、古い慣習を打ち破る革新成長企業の約50社でポートフォリオを構築しました。一部の銘柄に依存し過ぎないように、かつ、特定テーマで過度なリスクを取らないことを意識し、分散投資を基本方針として運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 東証スタンダード市場指数（配当込み）は当ファンドの参考指数です。

分配金

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万円当たり、税込み)

項 目	第23期
	2025年7月18日～ 2026年7月17日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	30,963

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「グローイング・ベンチャーマザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

（グローイング・ベンチャーマザーファンド）

当期間は、米・イラン軍事衝突や、「SaaSの死」に代表されるAI代替懸念の台頭など、株式市場を巡る環境が大きく変動した期間となりました。このような時こそ、地道な調査活動を通じて、マクロ環境を乗り越えて成長を遂げる企業を見出していくことが重要と考えています。例えば、原油価格高騰に伴う原材料価格の上昇を転嫁できる競争優位性を持っているか、AIが進化する中でも勝ち残っていくビジネスモデルを構築しているかなどを、中長期の視点を持って冷静に分析することが求められます。

弊社では、2025年は延べ1,019社、2026年も1～6月に延べ585社の経営者と個別直接面談を実施し、新たな投資助言候補の発掘に努めてきました。外的ショックによって株式市場が急変動するケースが増えていますが、弊社では、機動的に対応できるよう“森も木も見る”バランスを心掛け、特定セクターでの過剰なリスクテイクは控えることを意識し、より広範な領域へボトムアップ調査の幅を広げることで、引き続き革新成長企業を見出していきます。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2025年 7 月18日～2026年 7 月17日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 913	% 2.090	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(433)	(0.990)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(433)	(0.990)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受 託 会 社)	(48)	(0.110)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	47	0.107	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(47)	(0.107)	
(c) そ の 他 費 用	2	0.004	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(2)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	962	2.201	
期中の平均基準価額は、43,689円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

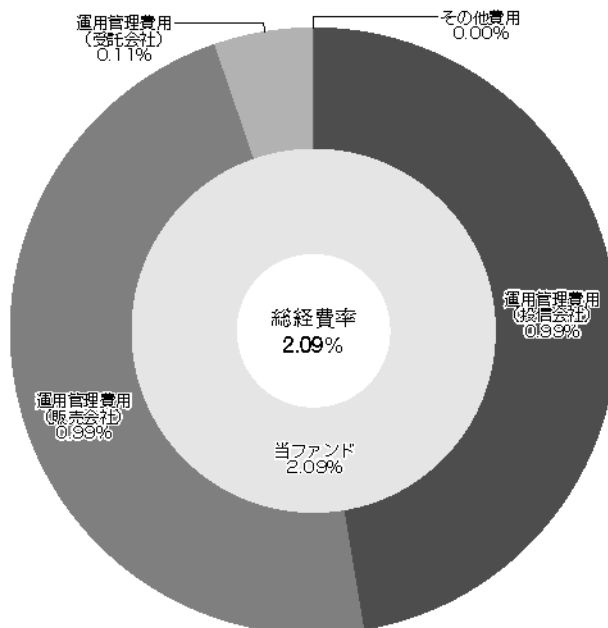
(注) 売買委託手数料は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.09%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認いただけますが、期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2025年7月18日～2026年7月17日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
グローイング・ベンチャーマザーファンド	296,365	2,243,177	294,122	2,090,674

○株式売買比率

(2025年7月18日～2026年7月17日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	グローイング・ベンチャーマザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	12,451,034千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	9,196,743千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.35

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2025年7月18日～2026年7月17日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

(2025年7月18日～2026年7月17日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2025年7月18日～2026年7月17日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2026年7月17日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
グローイング・ベンチャーマザーファンド	1, 079, 502	1, 081, 744	7, 319, 951

(注) 親投資信託の2026年7月17日現在の受益権総口数は、1, 200, 574千口です。

○投資信託財産の構成

(2026年7月17日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
グローイング・ベンチャーマザーファンド	7, 319, 951	97. 8
コール・ローン等、その他	166, 174	2. 2
投資信託財産総額	7, 486, 125	100. 0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2026年7月17日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	7,486,125,859
コール・ローン等	166,170,126
グローイング・ベンチャーマザーファンド(評価額)	7,319,951,226
未収利息	4,507
(B) 負債	95,537,174
未払解約金	7,853,725
未払信託報酬	87,499,300
その他未払費用	184,149
(C) 純資産総額(A－B)	7,390,588,685
元本	1,833,648,471
次期繰越損益金	5,556,940,214
(D) 受益権総口数	1,833,648,471口
1万口当たり基準価額(C／D)	40,305円

- (注) 当ファンドの期首元本額は1,792,495,212円、期中追加設定元本額は706,373,571円、期中一部解約元本額は665,220,312円です。
- (注) 1口当たり純資産額は4.0305円です。

○損益の状況 (2025年7月18日～2026年7月17日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	955,507
受取利息	955,507
(B) 有価証券売買損益	△ 325,299,941
売買益	62,781,580
売買損	△ 388,081,521
(C) 信託報酬等	△ 183,510,252
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	△ 507,854,686
(E) 前期繰越損益金	△ 53,368,117
(F) 追加信託差損益金	6,118,163,017
(配当等相当額)	(5,258,416,332)
(売買損益相当額)	(859,746,685)
(G) 計(D＋E＋F)	5,556,940,214
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G＋H)	5,556,940,214
追加信託差損益金	6,118,163,017
(配当等相当額)	(5,260,327,645)
(売買損益相当額)	(857,835,372)
分配準備積立金	417,247,128
繰越損益金	△ 978,469,931

- (注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
- (注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
- (注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程(2025年7月18日～2026年7月17日)は以下の通りです。

項 目	2025年7月18日～ 2026年7月17日
a. 配当等収益(経費控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	5,260,327,645円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	417,247,128円
e. 分配対象収益(a＋b＋c＋d)	5,677,574,773円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	30,963円
g. 分配金	0円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金（税込み）	0円
-----------------	----

○お知らせ

約款変更について

2025年7月18日から2026年7月17日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 当ファンドについて、委託会社である当社がその社名を「日興アセットマネジメント株式会社」から「アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社」に変更したため、2025年9月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（第1条、第19条）
- 当ファンドについて、「一般社団法人投資信託協会」の合併に伴ない、その記載を「一般社団法人資産運用業協会」に変更すべく、2026年4月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（付表、第7条、第28条の2）

その他の変更について

当ファンドが投資対象とする「グローイング・ベンチャーマザーファンド」（以下、投資対象マザーファンドといいます。）につき、投資顧問（投資助言）会社である「エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社」は2026年1月1日付けで「UBPインベストメンツ株式会社」と合併し、その商号を「UBPインベストメンツ株式会社」へ変更いたしました。このたびの合併後も、投資対象マザーファンドにおいて投資顧問会社から受ける投資助言サービスに変更はなく、当ファンドおよび投資対象マザーファンドは今後もこれまでの運用方針を継続してまいります。また、信託報酬の総額に変更はございません。

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申し上げます。

グローイング・ベンチャーマザーファンド

運用報告書

第23期（決算日 2026年7月17日）
（2025年7月18日～2026年7月17日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2003年7月18日から原則無期限です。
運用方針	主としてわが国の金融商品取引所上場株式の中から公開後5年以内の革新的な高成長新興企業の株式に分散投資を行ない信託財産の中長期的な成長をめざします。
主要運用対象	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資は行ないません。

ファンド概要

主として、わが国の金融商品取引所上場株式の中から公開後5年以内の革新的な高成長新興企業の株式に分散投資を行ない信託財産の中長期的な成長をめざします。

銘柄選定にあたっては、ボトム・アップ・アプローチを基本とします。組入銘柄の見直しは、随時行ないます。

なお、未上場株式に投資を行なう場合があります。

株式組入比率は原則として高位を保つことを基本とします。

株式以外の資産への投資割合は、原則として、信託財産の総額の50%以下とします。

ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

<936260>

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近 5 期の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		東証スタンダード市場指数 (配当込み)		株 組 入 比 率	純 資 産 額
		期 騰 落	中 率	(参 考 指 数)	期 騰 落		
	円		%		%	%	百万円
19期(2022年 7 月19日)	60,890	△19.1		977.28	—	97.3	9,942
20期(2023年 7 月18日)	71,782	17.9		1,135.02	16.1	97.2	10,934
21期(2024年 7 月17日)	61,686	△14.1		1,358.72	19.7	97.0	8,474
22期(2025年 7 月17日)	69,023	11.9		1,503.31	10.6	96.9	8,223
23期(2026年 7 月17日)	67,668	△ 2.0		1,761.32	17.2	96.9	8,124

(注) 東証スタンダード市場指数 (配当込み) は、2022年 4 月より新たに算出されるようになった指数です。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		東証スタンダード市場指数 (配当込み)		株 組 入 比 率
		騰 落	率	(参 考 指 数)	騰 落	
	円		%		%	%
(期 首) 2025年 7 月17日	69,023	—		1,503.31	—	96.9
7 月末	71,820	4.1		1,533.68	2.0	97.1
8 月末	77,360	12.1		1,606.99	6.9	97.1
9 月末	76,849	11.3		1,611.85	7.2	96.9
10月末	75,543	9.4		1,609.08	7.0	97.0
11月末	75,912	10.0		1,648.21	9.6	97.0
12月末	73,552	6.6		1,671.61	11.2	97.0
2026年 1 月末	71,534	3.6		1,745.37	16.1	96.8
2 月末	73,375	6.3		1,919.89	27.7	97.1
3 月末	65,166	△ 5.6		1,758.42	17.0	96.6
4 月末	69,453	0.6		1,830.37	21.8	96.1
5 月末	72,635	5.2		1,820.05	21.1	96.7
6 月末	68,506	△ 0.7		1,795.05	19.4	96.8
(期 末) 2026年 7 月17日	67,668	△ 2.0		1,761.32	17.2	96.9

(注) 騰落率は期首比です。

○運用経過

(2025年7月18日～2026年7月17日)

基準価額の推移

期間の初め69,023円の基準価額は、期間末に67,668円となり、騰落率は△2.0%となりました。

基準価額の変動要因

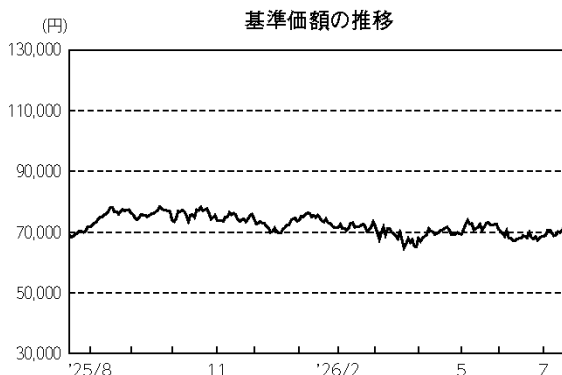
期間中、基準価額に影響した主な要因は以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・2025年8月に、新興株式のなかでも出遅れ感の強い好業績銘柄が買われる動きが強まった流れを受け、大きく上昇したこと。
- ・2026年4月から5月にかけてA I（人工知能）・半導体関連、蓄電池関連、宇宙関連などの組入銘柄が大きく上昇したこと。

<値下がり要因>

- ・2026年2月にA Iの台頭により「S a a Sの死」が意識され、ソフトウェア関連銘柄が下落したこと。
- ・2026年3月に原油高によるインフレ懸念を背景に米利上げ観測が台頭し、中東情勢の緊迫化を嫌気したリスクオフの動きと相まって、新興株式が大きく下落したこと。

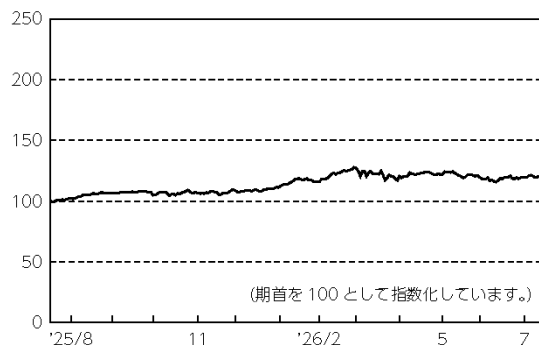


期 首	期中高値	期中安値	期 末
2025/07/17	2025/09/22	2026/03/23	2026/07/17
69,023円	78,322円	64,798円	67,668円

基準価額（指数化）の推移



東証スタンダード市場指数（配当込み）（指数化）の推移



(株式市況)

当期の株式市場は、ＴＯＰＩＸが上昇基調で推移する一方、新興株式市場は2025年の年末にかけて下落基調になるなど、前半は対照的な動きとなりました。しかし、2026年に入ると、新興株式市場にもＡＩ・半導体関連物色の流れが広がったほか、宇宙関連などのテーマ銘柄が買われ、上昇に転じました。ただ、期間末にかけてはＡＩ・半導体関連一極集中への警戒感や、米大型ＩＰＯを控えた需給悪化懸念などを背景に、これまで上昇してきた銘柄を中心に調整が進みました。

ポートフォリオ

当期間も徹底した個別・直接面談調査を通じ、斬新な発想や製品を持ち、古い慣習を打ち破る革新成長企業の約50社でポートフォリオを構築しました。一部の銘柄に依存し過ぎないように、かつ、特定テーマで過度なリスクを取らないことを意識し、分散投資を基本方針として運用を行ないました。

○今後の運用方針

当期間は、米・イラン軍事衝突や、「ＳａａＳの死」に代表されるＡＩ代替懸念の台頭など、株式市場を巡る環境が大きく変動した期間となりました。このような時こそ、地道な調査活動を通じて、マクロ環境を乗り越えて成長を遂げる企業を見出していくことが重要と考えています。例えば、原油価格高騰に伴う原材料価格の上昇を転嫁できる競争優位性を持っているか、ＡＩが進化する中でも勝ち残っていくビジネスモデルを構築しているかなどを、中長期の視点を持って冷静に分析することが求められます。

弊社では、2025年は延べ1,019社、2026年も1～6月に延べ585社の経営者と個別直接面談を実施し、新たな投資助言候補の発掘に努めてきました。外的ショックによって株式市場が急変動するケースが増えていますが、弊社では、機動的に対応できるよう“森も木も見る”バランスを心掛け、特定セクターでの過剰なリスクテイクは控えることを意識し、より広範な領域へボトムアップ調査の幅を広げることで、引き続き革新成長企業を見出していきます。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2025 年 7 月 18 日～2026 年 7 月 17 日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 79 (79)	% 0.108 (0.108)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
合 計	79	0.108	
期中の平均基準価額は、72,642円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注) 各比率は 1 万口当たりのそれぞれの費用金額 (円未満の端数を含む) を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第 3 位未満は四捨五入してあります。

○ 売買及び取引の状況

(2025 年 7 月 18 日～2026 年 7 月 17 日)

株 式					
		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株 3,578 (617)	千円 6,377,695 (—)	千株 4,663	千円 6,073,338

(注) 金額は受け渡し代金。
(注) () 内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○ 株式売買比率

(2025 年 7 月 18 日～2026 年 7 月 17 日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合	
項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	12,451,034千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	9,196,743千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.35

(注) (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2025年7月18日～2026年7月17日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2025年7月18日～2026年7月17日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○組入資産の明細

(2026年7月17日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
建設業 (5.6%)			
トヨコー	—	125.5	246,607
UNICONホールディングス	—	225	196,875
食料品 (5.0%)			
オカムラ食品工業	190	202	247,046
梅乃宿酒造	—	125	148,250
金属製品 (6.3%)			
技術承継機構	20.8	16.5	291,720
セイワホールディングス	—	140	206,640
機械 (10.0%)			
西部技研	43	123	247,722
JRC	—	198.9	236,492
守谷輸送機工業	77	122	299,266
電気機器 (7.7%)			
パワーエックス	—	42	81,564
オキサイド	88	—	—
湖北工業	110	51	215,985
KOKUSAI ELECTRIC	59.6	23.5	206,823
ソシオネクスト	82	45	101,970
シキノハイテック	11	—	—
輸送用機器 (2.5%)			
AeroEdge	54	140	195,300
精密機器 (1.6%)			
リガク・ホールディングス	—	57	129,162
陸運業 (1.8%)			
ビーイングホールディングス	92	259	142,450
情報・通信業 (23.1%)			
VRAIN Solution	84.5	63	236,250
ソラコム	85	—	—
ファブリカホールディングス	4.5	—	—
網屋	90	—	—
セキュア	104.5	122	187,392
ユーゾナー	—	47	90,240
ワンキャリア	134	149.1	307,146

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
インフキュリオン	—	47	38,117
ボードルア	92.4	85	265,625
グローバルセキュリティエクスパート	90	46.8	204,048
Finatextホールディングス	227	105	172,410
QPSホールディングス	—	70	111,790
AnyMind Group	100	—	—
eWeLL	113.5	86.8	176,551
スマートドライブ	738	—	—
Ridge-i	4	—	—
グリッド	56	5	9,615
ネットスターズ	—	25	17,200
QPS研究所	75	—	—
卸売業 (1.5%)			
アルファバーチェス	8.5	70	116,900
小売業 (7.2%)			
トライアルホールディングス	99.8	87.5	260,750
ガーデン	5	—	—
犬猫生活	—	62.5	127,000
DAIWA CYCLE	—	62	175,646
HYUGA PRIMARY CARE	8	—	—
その他金融業 (2.9%)			
NSグループ	—	152	227,240
不動産業 (2.8%)			
ククレブ・アドバイザーズ	14.5	62	221,960
サービス業 (22.0%)			
ダイブグループ	150	—	—
マテリアルグループ	18	—	—
アズパートナーズ	31.5	—	—
アストロスケールホールディングス	54	68	66,708
日水コン	—	118	234,820
グローピング	34	—	—
ユカリア	175	—	—
リススキル	36.5	—	—
令和アカウンティング・ホールディングス	207	310	232,810

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
クラシル	153	200	215,400
M I C	89	106	304,644
I A C E トラベル	—	95	134,330
ウェルネス・コミュニケーションズ	15	20	20,740
エータイ	6.7	95	213,750
S Q U E E Z E	—	28.2	126,477
アイドマ・ホールディングス	120	—	—
ライズ・コンサルティング・グループ	260	—	—

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
フルハシE P O	160	141	170,610
A V i C	64	—	—
I N T L O O P	46.5	—	—
F C E	330	20	10,340
合 計	株 数 ・ 金 額	4,911	4,444
	銘柄数<比率>	49	45

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2026年7月17日現在)

項 目	当 期 末	比 率
	評 価 額	
株式	千円 7,870,382	% 96.6
コール・ローン等、その他	275,090	3.4
投資信託財産総額	8,145,472	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2026年7月17日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	8,145,472,127
コール・ローン等	243,105,107
株式(評価額)	7,870,382,300
未収入金	7,476,327
未収配当金	24,501,800
未収利息	6,593
(B) 負債	21,414,184
未払金	21,414,184
(C) 純資産総額(A－B)	8,124,057,943
元本	1,200,574,170
次期繰越損益金	6,923,483,773
(D) 受益権総口数	1,200,574,170口
1万口当たり基準価額(C／D)	67,668円

- (注) 当ファンドの期首元本額は1,191,487,584円、期中追加設定元本額は340,992,028円、期中一部解約元本額は331,905,442円です。
- (注) 2026年7月17日現在の元本の内訳は以下の通りです。
- ・日興グローイング・ベンチャーファンド 1,081,744,876円
 - ・ジャパン・グローイング・ベンチャーファンド(道格機関投資家向け) 118,829,294円
- (注) 1口当たり純資産額は6,7668円です。

○損益の状況 (2025年7月18日～2026年7月17日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	112,649,004
受取配当金	110,745,218
受取利息	1,890,477
その他収益金	13,309
(B) 有価証券売買損益	△ 403,529,368
売買益	1,962,377,828
売買損	△2,365,907,196
(C) 当期損益金(A＋B)	△ 290,880,364
(D) 前期繰越損益金	7,032,511,736
(E) 追加信託差損益金	2,221,421,232
(F) 解約差損益金	△2,039,568,831
(G) 計(C＋D＋E＋F)	6,923,483,773
次期繰越損益金(G)	6,923,483,773

- (注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
- (注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○お知らせ

約款変更について

2025年7月18日から2026年7月17日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 当ファンドについて、2025年9月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。
 - ①委託会社である当社がその社名を「日興アセットマネジメント株式会社」から「アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。(第1条、第5条)
 - ②法定運用報告書の交付は行なわない旨を定めている規定につき、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に即した記載に変更するべく、変更を行ないました。(第47条)
- 当ファンドについて、「一般社団法人投資信託協会」の合併に伴ない、その記載を「一般社団法人資産運用業協会」に変更すべく、2026年4月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。(付表、第7条、第21条の2)

その他の変更について

当ファンドの投資顧問（投資助言）会社である「エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社」は2026年1月1日付けで「UBPインベストメンツ株式会社」と合併し、その商号を「UBPインベストメンツ株式会社」へ変更いたしました。このたびの合併後も、当ファンドにおいて投資顧問会社から受ける投資助言サービスに変更はなく、当ファンドは今後もこれまでの運用方針を継続してまいります。また、信託報酬の総額に変更はございません。